



行われました

真田紀子

2022年度日中友好協会岡山支部総会が

日中友好新聞

題字 草原田 親

No. 979

2022/8/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都台東区浅草橋2-1-3
印刷755号
電話 03-5839-2149(FX)
FAX 03-5839-2141
http://www.jcf-c.org.jp
E-mail:okuchou@jcf-c.org.jp
社印 00119-1-21176

日中友好協会
岡山支部
〒705-0034
岡山市北区下伊福
西町1-59 民生会館1F
TEL/FAX 0861-256-8406

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福河町東2461-41
TEL/FAX 0861-411-7806

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.inaa.net/
メールアドレス
nicchukayama@yahoo.co.jp

2022年7月31日(日)10時から、岡西公民館で標記の会が開催されました。当日参加者は10人でした。すべて理事という参加者で、一般の会員の参加はありませんでした。岡山支部のおかれている現状が見える状況でした。現職の事務局長である小林軍治さんを6月24日に失い、その不在感のなかでの総会であり、現状を把握することも難しいことがわかりました。

しかし、その中でも新しい理事が誕生しています。小林さんが主に担ってこられた帰国者支援担当の理事として井堀風才さんがその任を受けてくださいました。また、貝吹佳代子さんが日本語教室担当として理事を受けてくださいました。小林さんが果たしてこられた幅広い分野での、熱意ある活動を受け継ぐことは、簡単なことではありませんが、新しい人々と少しずつ前に進めたらと考えています。

倉敷支部の宇野理事長もワクチンの副反応で欠席されました。前日にメールで挨拶文を送っていただいていたので、倉敷支部の犬飼さんに代読していただきました。

出席者全員理事ですので、自己紹介は省いて、議案の説明に入りました。

中でも日中友好協会岡山支部連合会の結成は、大きな成果だと評価でき

きることでした。ここでも残念ですが、理事長の任にあった小林さんの代わりになる人材が見当たりません。しかし、2か月に一回行われる理事会もすでに4月、6月と2回行われていて、問題点が出し合われて、解決に向けて話し合いが進んでいます。また、井笠支部準備会も重ねられ、この記事を書いている時点で、日中国交回復50周年として、井原で記念講演を持つことが決まり、チラシ・ポスターも作成段階に入っています。

文化・交流・支援の活動では、各クレーション企画・活動《太極拳の活動》《中国語講座の活動》《中国映画を見る会》《中国人留学生との交流会》《谷中新聞 おかやま》の発行とホームページの活動《中国百科検定のとりくみ》などが報告されました。

ここでも、帰国者との交流及び自立支援のための活動《について、中心的に活動してこられた小林さんの行動を把握することすら難しく、特に「日本語教室」の現状をすべて調べることができませんでした。

しかし、毎年恒例の岡山市役所1階ロビーで行われる「中国帰国者問題写真と資料展」は14回目の展

示を行うことができました。そして、中国帰国者のための介護施設「ほり」が2021年7月1日に小規模多機能型居宅介護施設としてオープンしたことが、井堀風才・紅霞夫妻の手紙として報告されました。

平和をつくり出す活動として、平和の波の活動に参加して、平和七夕まつり」の折鶴の吹き流しを3本、さんかく岡山の前につりました。

不再戦の活動は、コロナ禍で2021年7月7日にはビラ配布ができませんでしたが、9月18日の柳条湖事件90周年は、天満屋アリスの広場で街頭宣伝を行いました。

母親運動では、岡山県母親大会実行委員会に加盟している加盟団体として、母親運動の一翼を担っています。

2021年度の決算と監査報告がされた後、2022年度の活動のすすめ方が報告されました。ほぼ前年度と同じですが、百科検定は第12回が2022年12月3日に行われます。そして、大きく変わったのが岡山県支部連合会を中心に活動を進めることが明記されたことです。

裏へつづく

最後に、質疑応答が行われましたが、そこで、木村会計監査から厳しい指摘がいくつかありました。

①会計を健全化するために、会費の請求をきちんとして、健全な組織は2か月に一度請求するが、最低でも6か月に一度はしなくてはならない。②会員を増やすためには、入会案内と申し込みがセットになっているパンフレットを作り、いつでも渡せるように準備してはならない。③理事は名刺を携帯し、いつでも渡せるようにして、日中友好協会の活動をしていることを周囲に認知してもらうこと。④人手が足りないのだから、役職を整理して、理事長はおかなくてもよいのではないか、それよりも事務局長が空席のほうの問題ではないか、等々。時間を大幅に過ぎての熱心な討議が行われました。

2022年度役員(案) 2022年7月31日
支部長 真田紀子
理事長 河井伸士
事務局長 未定
理事: 青木正美、 稲葉泰子
曾田和子、 竹内袈裟行
小川涼子、 田中栄子
貝吹佳代子、井堀風才
全国理事(倉敷支部) 犬飼 繁
会計監査 木村周二

第7回井笠支部準備会

8月5日(金)井原市出部公民館で、井笠支部準備会が開かれました。岡山支部から2名、倉敷支部から2名、井笠地域から6名の計10名の参加でした。

11月3日(木・文化の日)に行われる、日中国交回復50周年記念講演会について、場所は出部公民館で、講師は大西広慶応大学名誉教授にお願いし、主催は日中友好協会井笠支部準備会、日中友

好協会岡山県支部連合会とする。井原市、井原市教育委員会に後援をお願いする。参加費・資料代は200円とする等を確認しました。

中国の脅威―台湾有事の報道が流され、日米同盟の拡張・強化や軍備増強が進められる中で、日中友好運動のとりくみ、会員の拡大が求められています。次回は8月30日に開くことを決めました。

河井伸士

日中国交回復50周年記念講演会

2022年11月3日14時～

井原市出部公民館2階ホール

「ウクライナ問題をめぐる世界の分断と中国の役割」 新疆問題、台湾とも関わって

講師：大西 広（慶応大学名誉教授）

日中国交回復50周年の記念すべき節目に当たり、今一度、過去の歴史に学び、冷静に、日本、中国の関係を見直し、国連憲章や日本国憲法および日中共同声明の基本的視点で捉えなおすことが重要です。

井原市は、日中国交正常化に絶大な尽力をされ、両国の友好交流関係の土台を据えられた内山完造さんの出身地であり、まことに意義深いものと思われま

私と日中

真田紀子

1996年の夏に、私を含め友人たち5人で、チベット高原の南西に位置する聖なる山カイルスを目指して中国に向かいました。北京から新疆ウイグル自治区のウルムチに飛び、そこからカシュガルまでは飛行機です。カシュガルからは4輪駆動の車2台とトラック1台で、チベット高原へ入ります。3000メートルを超えて、谷へ降りまた3000メートルを超える行程です。次第に標高が高くなり、4000メートルを超えるあたりから、体調が悪くなってきました。一度は高地順応のため2日ほど同じ宿に泊まりましたが、いずれ移動することになります。5000メートルを超えたあたりから意識がなくなりました。高山病です。

次に私が意識を取り戻したのはウルムチの病院です。何が起きたのか、詳細は同行の渡辺さんが書いて、私の荷物に入れてくれていた手紙を読んでわかりました。ほぼ1週間意識不明で、その後ヘリコプターでウルムチに運ばれたようです。病院には私しかいませんので、周りは全て中国語です。それでも何とかなるもので、身振り手振りで意思疎通はできますが、肝心な話はできません。そこへ現地にお住いの石橋さんという方が訪ねてきてくださいました。石橋さんの機転で私の荷物が、手元に届き、手紙を読むことができたのです。

チベット高原を領有している中国では高山病の治療方法は進んでいます。私もどんどん回復し、兄が救援に来てくれ、一緒に日本へ帰国しました。

翌年、大変お世話になった中国の方々にお礼を言い、また中国へ行こうと思い、今度は少しでも中国語がわかるようになりたいと、中国語を勉強することにしました。

そこで、関西高校の桑山先生(当時の日中友好協会岡山支部の事務局長)に相談し、竹内先生の講座と桑山先生の講座の両方を受講することにしました。そこから日中友好協会とのお付き合いが始まったのです。



次回の新聞発送作業は
8月25日(木)午前10時半から
民主会館1階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

河井
竹内
犬飼
池田